



### 父母の会の

### 事業にご参加下さい！

会長 浅野高宏



あけましておめでと  
うございます。  
日頃、「父母の会」  
の事業にご理解と協  
力を賜り、厚く御礼申  
し上げます。

新潟産業大学は、新潟県の私立大学の中で最も古い歴史を持つ大学であり、また自然にも恵まれ、学生が学ぶにふさわしい環境にあるといえます。また未曾有の就職難の中でも非常に高い就職率を維持しています。これもひとえに教職員の皆様の熱心な教育、ご指導の賜物だと思えます。

「父母の会」は、このような大学の教育活動を援助し、学生及び教職員の教育ならびに福利の増進を図り、大学と家庭との連絡協調を緊密にするとともに、相互の理解と協力により、大学の発展に寄与すること を目的としています。主な事業としては、①全体総会、②各支部総会、③学園祭である紅葉祭に併せて行う文化講演会、④奨学貸付事業、⑤部活動への援助、などがあります。

総会には、毎年多くの会員の出席をいただいています。少子化などの影響による入学生数の減少で会員の総数も減少しています。しかしその中で、学生による武道、楽器演奏、歌唱などの発表には、本当に感心させられ出席された会員の皆様にも大変好評です。また

就職活動体験談は、正規雇用されるのが難しくなっている今の社会情勢の中で、頑張っている学生達の努力、悩みなどを聞くことができ、社会人の先輩である私達保護者にも参考になり、考えさせられたりもします。できるだけ多くの会員の皆様にぜひ聞いていただきたいと思えます。

各支部総会では、講演会や、大学の教職員の皆様からの大学の現況報告、個別面談、学生からの就職活動発表など、総会に出席できなかった方々にも参加していただけるよう開催しています。

今年度より皆様の元に届く会報も、より趣向を凝らし、学生の活躍の様子、参加者のご感想等を生の声として取り上げ、皆様から今まで以上に父母の会への関心を持っていただくべく紙面づくりをしていきたいと考えています。どうか父母の会の事業に積極的に参加してくださいませようお願いします。

最後に、新潟産業大学と父母の会の益々の発展のために、皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

#### ※父母の会会報は、大学の現状、学生たちの活動の様子等が伝わるよう紙面づくりをしております。

ぜひ、ご一読くださいますようお願い申し上げます。

### ご挨拶

新潟産業大学 学長 広川俊男



ご父母の皆様には、いつも温かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。

「経済経営学科」と「文化経済学科」からなる経済1学部2学科の「コンパクト・ユニバーシティ」に再編してやがて2年になります。コンパクト(compact)は、言うまでもなく「小さくて中身が充実しているさま」であり、小さいが個性豊かで魅力的な大学を目指しています。学生一人ひとりの顔が見えるきめ細やかな授業を通じて経済・経営の基礎をしっかりと学びます。

同時に、コミュニケーション能力や社会人基礎力、そして、グローバル社会の課題にも、先行きが懸念される地域の諸課題にも積極的に対応できる知識と資質を身につけた人材を育てます。

成果も生まれています。

さる12月18日、十日町市で開催された、地域の活性化案を競い合うコンテストで、本学のチームは新潟予選会を1、2位で通過しましたが、二人の発表者は「いずれも自己表現のワークショップ」の修了者でした。

このワークショップは声優として活躍中の本学客員講師、堀井真吾さんが厳しく、熱く指導する特別講義で、受講生の成長ぶりには目を見張るものがあります。

2月～3月には「介護ヘルパー」の資格取得講座も開講します。

一般的には受講料9万円前後で開設される講座を、学内では3万7千円で受講できます。

地域社会を主体的に支える力を育む試みであり、多くの学生の受講を期待しています。

どうぞ、引き続き本学の教育活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 『父母の会』年間事業

「父母の会」は、年間を通じて次のような活動を行っています。

「父母の会」の目的は、大学と家庭が連携しながら、そこで学ぶ学生たちが快適な大学生活を送れるようバックアップすることです。

活動の内容は、①大学の具体的な現状報告、②4年生による就職体験談(就職難なこの時代にどう立ち向かい内定を勝ち取ったかを事例を挙げて発表する)、③子どもたちの成績や就職状況、学生生活全般に関する個別面談の実施、④文化講演会の開催などがあり、大変参考になることばかりです。

積極的に「父母の会」にご参加いただき、大学の状況、学生の様子等をご理解いただければ幸いです。

#### 〈年間スケジュール〉

- 4月 前年度会計監査
- 6月 役員会 (H21年度は、総会日と合わせ第2土曜に実施)
- 10月 個別面談会・総会・講演会の開催 (H21年度は、第2土曜)
- 10月 文化講演会(学園祭開催に合わせて実施)
- 10月～12月 各支部総会開催
- 1月 会報発行
- 2月 役員会

#### 〈役員募集中！〉

平成23年度の「父母の会」役員を募集しております。

大学のこと、在学生のことなどについて考え、より実のある「父母の会」にしていければと考えています。

我こそはという方がいらっしやいましたら、父母の会事務局までご連絡願います。

預金一覽

(平成22年3月31日現在・単位：円)

種別	金額	満期日	備考
定期預金 NO. 2142391	420,000	平成22年 6月16日	平成22年度事業に使用目的の積立金 北越銀行(スーパー定期自動継続) 利率0.2%
定期預金 NO. 2142406	420,000	平成22年 6月16日	平成22年度事業に使用目的の積立金 北越銀行(スーパー定期自動継続) 利率0.2%
定期預金 NO. 2142419	510,000	平成22年 6月16日	平成22年度事業に使用目的の積立金 北越銀行(スーパー定期自動継続) 利率0.2%
定期預金 NO. 2142420	510,000	平成22年 6月16日	平成23年度事業に使用目的の積立金 北越銀行(スーパー定期自動継続) 利率0.2%
定期預金 NO. 2142421	525,000	平成22年 6月28日	平成22年度事業に使用目的の積立金 北越銀行(スーパー定期自動継続) 利率0.2%
定期預金 NO. 2122658	575,000	平成22年 6月28日	平成22年度事業に使用目的の積立金 北越銀行(スーパー定期自動継続) 利率0.2%
計	2,960,000		
奨学基金積立			
定期預金 NO. 2235327	2,013,159	平成22年 6月9日	平成6・7年度 奨学基金積立 第四銀行(ス・パ・定期成長型) 利率0.2%
定期預金 NO. 2235328	1,509,871	平成22年 6月9日	平成8年度 奨学基金積立 第四銀行(ス・パ・定期成長型) 利率0.2%
定期預金 NO. 2235329	1,509,871	平成22年 6月9日	平成9年度 奨学基金積立 第四銀行(ス・パ・定期成長型) 利率0.2%
定期預金 NO. 2235330	1,509,871	平成22年 6月9日	平成10年度 奨学基金積立 第四銀行(ス・パ・定期成長型) 利率0.2%
計	6,542,772		
合計	9,502,772		
決済用 普通預金	1,121,414		北越銀行柏崎支店 No.458160
計	3,036,414		No.61482 特別会計奨学費計
決済用 普通預金	1,800,000		No.482517 人会者会費振込用

父母の会会計

(単位：円)

収入の部

科目	21年度予算額	21年度決算額	比較増減	摘要	22年度予算額
会費(新入生のみ)	2,070,000	2,070,000	0	20,000円×102名=2,040,000円(1年生) 10,000円×3名=30,000円(大学院生)	1,800,000
当年度事業積立金繰入	1,685,000	1,685,000	0	過年度に徴収した平成21年度事業積立金取崩分	1,520,000
雑収入	30,000	48,034	△ 18,034	懇親会費、預金利息他	30,000
前年度繰越金	1,323,707	1,323,707	0		1,121,414
計	5,108,707	5,126,741	△ 18,034		4,471,414

支出の部

(単位：円)

科目	21年度予算額	21年度決算額	比較増減	摘要	22年度予算額
事務費	30,000	5,817	24,183	切手・はがき・振込手数料	10,000
役員会開催費	200,000	105,334	94,666	通信費・交通費・昼食代他	150,000
総会開催費	450,000	285,835	164,165	通信費・印刷費・懇親会費他	300,000
北海道東北支部	70,148円	新潟支部	362,859円	関東支部	22,775円
支部活動補助費	1,100,000	721,497	378,503	北陸支部 840円 中部東海支部72,045円 近畿以西支部 107,560円 教職員派遣会交通費 85,270円	1,000,000
事業開催運営費	400,000	305,773	94,227	文化講演会開催経費	350,000
課外活動補助費	600,000	600,000	0	遠征・強化合宿等、学友会への補助	600,000
会報発行費	50,000	36,071	13,929	印刷費・発送費用	40,000
卒業行事関係補助費	300,000	300,000	0	卒業パーティ経費	250,000
福利厚生費	100,000	0	100,000	慶弔費	60,000
奨学事業費	100,000	100,000	0	留学生を支援する会への寄附金	100,000
22年度事業積立金	525,000	525,000	0	前徴収事業費の当該年度までの積立金	
23年度事業積立金	510,000	510,000	0	前徴収事業費の当該年度までの積立金	455,000
24年度事業積立金	510,000	510,000	0	前徴収事業費の当該年度までの積立金	445,000
予備費	233,707	0	233,707		445,000
次年度繰越	0	1,121,414	△1,121,414		266,414
計	5,108,707	5,126,741	△ 18,034		4,471,414

就職活動体験談



経済学部4年  
小林 雄斗  
(新潟トヨタ自動車(株)内定)

私が就職活動を開始したのは12月。周りの学生たちが就職支援サイトに登録していることや、合同説明会へ参加していることを知り、私も焦って動き始めたのを感じています。

私が最初にやったのは「自分をj知る、つまり自己分析です。大学の就職ガイダンスに参加した際に、自己分析の重要性について学んだことを思い出して、「まずはこれからだ!」と感じ、早速行いました。私の場合、以前から人と多く関わりを持つことが好きで、接客のアルバイトを通してお客様から「ありがとう」と言われることにやりがいや喜びを感じていました。しかし、営業と言っても一概に皆同じというわけではありませんし、目標として漠然としすぎています。そこで私は、「自分が好きなものを、自信を持って提供できる営業」を考えてみることにしました。すると真っ先に出てきたのが自動車販売でした。また、真つ先に出てきたのの販売とは違い、お客様と長い付き合いができること、販売には大きな信頼関係が必要であることも自動車販売の魅力だと感じました。

次に行ったのが自己分析です。友人やアルバイト先の私をよく知る方に「私をどのような人間なのか」「長所と短所は何か」などを聞いて回りました。そしてそれを自己分析での結果と照らし合わせ、より多くの視点から自分を探り、ビジョンを考えました。

また、選考での一番の山場といえは、面接だと思っています。その面接で、私が最も大切だと考えているのは、「ありのままの自分を飾らず取り上げて伝えること」です。ですから、あまり考えすぎたり、良いことを言おうとしたりしすぎたりしない方が良いでしょう。面接で落とされた時のショックや就職活動で感じるストレスも相当なものでした。そんな時に支えてくれたのは、やはり両親でした。経済的な援助はもちろんだが、私が落ち込んでいたときには優しい言葉で励まし、温かい目で見守ってくれました。私が内定を頂くことができたのは、私自身の力だけでなく、両親からのこのような支えがあったからだと感じています。



経済学部4年  
力石 真理恵  
(柏崎信用金庫内定)

就職活動はスタートした。でもその波に負けずに「内定を勝ち取る!」という強い決意で臨みました。実際に活動をしていくなかで、何度もその決意が折れることとなりましたが、第一志望の企業より内定を頂くことができたときは、その苦しさや辛さがあったからこそ何倍にもうれしく感じました。

私が学生生活の重点を就職活動に置いたのは3年生の9月。柏崎市役所へ2週間のインターンシップへ行き、私の就職活動がスタートしました。私は志望職種があまり定まっていなかったため、業種や職種を最初から絞らずに約70社にエントリーをしました。12月になると合同企業説明会が行われ、多くの学生が本格的に就職活動を始めます。そこで見た学生の数に圧倒され、「負けたくない」という前向きさを失い、「他の学生に勝てる気がしない」と悩むようになりました。そこで大切だと感じたのが自己分析です。自分の長所をより多く見つけ、短所と向き合い改善方法を導くことで自分を知り尽くさなければ、アピールすることもできず面接で生き残れないと思いました。またSPIや一般教養の対策は早いうちからしたほうがいいと思います。

年明けからは、企業が単独で行う会社説明会が開催され、2月中旬からは選考が始まります。選考は基本的に筆記試験と面接試験数回が行われます。私が面接試験を受けて感じたことは、まず志望動機がしっかりとしていなければならないこと。これは必須条件です。二点目は自分をしっかりと理解していること。そのためにも、自己分析をしながら今までの何をしていたかや、強みは何なのかなどの引き出しを複数用意しておいたほうがいいと感じました。私の場合、大学主催の就職合宿に参加した際に模擬面接などを経験していたので、緊張せずに素の自分で勝負できたと思っています。

私は大学で地域経済学を専攻し、まちや人の発展に貢献できる金融業に携わり、柏崎に密着をした仕事をしたいと、第一志望は柏崎信用金庫さんでした。結果、内定をいただいた事ができ、今でも心半分信じられないような気持ちです。家族も大変驚いていると思います。企業の方は学生が思っている以上に、学生を見ています。その企業と一目会ったときから、選考は始まっているくらいの心構えで臨んでほしいです。

※平成22年6月12日(土)に実施した「父母の会総会プログラム 就職活動体験談」より抜粋

# 父母の声

●「地元」に大学ができた、嬉しい！」

私と産大との関わりは、ウーマンカレッジの聴講生として大学の門をくぐり、また青少年健全育成では広川学長、学友会の皆さんに関わっていた。産大に息子が入学し、それが縁で父母の会の役員をさせて頂きました。そしてまた違った面で教員、職員の皆様と接することが多くありまして、私自身も大変勉強になりました。

「学生を大事にする大学」であると感じています。息子は卒業しますが、私はもう少し大卒との縁をつなげて行こうと思っています。(トライオーク：などで)。(会計 小林悦子)

●「感謝」

新潟産業大学のことは、4年前のオープンキャンパスで初めて知りました。いろいろな縁で産大にお世話になり、早いものでまもなく卒業です。

産大に入学し、親元を離れ不安もあったでしょうが、キャンパスでは、教職員の方が親切に声をかけてくださり、とても心強かったと言っております。それは、教職員の皆様、学生一人ひとりの名前を覚えていらっしゃるから出来ることだと思えます。これも小さな産大ならではの良さです。

親の目の届かない新潟の地で一人暮らしをさせるのは、とても心配でしたが、教職員の皆様の温かいお心遣いに触れ、安心してお任せすることができました。

息子は、産大に入学してから少しずつ成長し、たくましくなってきたと思います。また、親も息子を通して成長できたのではないかと思います。

教職員の皆様には、感謝致しております。産大に入学させ、本当に良かったと思います。ありがとうございました。

(関東支部長 徳江孝一)

●「立てど歩めよ我が子よ！」

入学式の前日に息子と二人で柏崎駅周辺を歩き、「ここから新たな人生が始まるのだなあ」と、緊張と希望で胸が高鳴りました。少しずつ友達や野球部の先輩や沢山の人の交流も深まり、日々自分なりに考え、懸命に生活していることが笑顔から伝わって来ました。

野球部に所属し、折々の試合球場での姿を見ては目映い思いでした。主将となり悩んでいる時も大学の先生、先輩、クラブチーム、友人の方々のご支援を頂き、大変に有り難い思いでした。

三年秋には、中国研修に参加し、日本から離れての貴重な体験をしたと思います。

今、自分の出来る精一杯を尽くし、沢山の皆様のご縁の中から教えて頂き、謙虚な姿勢で物事を客観的に見据える力を培い、自己研鑽、感謝を忘れずに時代を生き抜いて下さい。

そして心疲れた時は、いつでも翼を休めに顔を見せに来て下さい。

(新潟支部幹事 渡辺千恵子)

●「お世話になっていきます！」

私の自宅は「堀」なので、息子は小学校よりも近くの新潟産業大学に1昨年からお世話になっていきます。自転車に乗って5分で大学に行けるので、お昼はほとんど自宅に帰って来て食べます。親としては、「もつと真面目に勉強しろ！」と言いたのですが、80歳になる息子の祖母は「毎日、学校に行つてえらい！」と言っています。

父母の会の総会や講演会にできるだけ顔を出すようにしています。すると、役員の方から声がかかり、昨年から父母の会の幹事を任せつづけています。大学生にもなって、今さら父母の会なんてと思われる方も多いかも知れませんが、参加してみると、大学の魅力がよく理解できます。

就職率が高い丁寧な指導、そして地域に開かれたアットホームな大学。大学や父母の会の活動に対して、微力ながら力になりたいと考えています。

(新潟支部幹事 春川純一)

## Campus Topics

### 「十日町市ビジネスコンテスト」で本学学生が1位・2位を独占!!

昨年12月18日(土)、十日町市のクロス10(十日町地域地場産業振興センター)において、第1回十日町市ビジネスコンテスト(略称トオコ)新潟予選会が開催されました。本学からは学生3チームが参加し、見事1位・2位を独占しました!!

このコンテストは十日町市が主催し、「十日町市で行うビジネス」をテーマに、地域経済の活性化を目的とし、実現を前提とした企画を地元大学生チームと県外大学生チームが競い合うコンテストです。この度の新潟予選会の上位3チームが、本選会に出場します。

予選会には、本学他、長岡技術科学大学から2チーム、長岡大学から2チームが参加しました。会場には、地元商店街や事業所の方々、応援の大学関係者等が多数駆けつけ、学生たちのプレゼンテーションに真剣に耳を傾けていました。

本学からの出場は、「やまね屋(1年次基礎ゼミナールチーム)」、「チームNSU(水球部)」、「Team燦水会(水球部)」の3チーム。いずれも、学生たちは事前に十日町へ何度も足を運んで下調べをし、アイデアに裏づけけた値や具体的事例を盛り込み、十日町の活性化

に繋がる実現可能なビジネス提案を、堂々と行いました。

本学は、「地域社会や企業を主体的に力強く支える人材の育成」をミッションに掲げ、これを達成するために、「社会人基礎力養成」等の基礎教育と経済学、経営学、文化経済学の専門教育によって教育課程を編成しています。この度の学生の活躍によって、本学の教育活動が、またひとつ実を結んだ結果となりました。

本選会は、2月26日(土)に当開高原リゾート「ベルナテイオ」で開催され、東京予選会で勝ち上がった慶応義塾大学、京都産業大学のチームと競うこととなります。本学の2チームは、本選会でも十分に力を発揮してくれることでしょう。

◇結果◇

1位：チームNSU 『十日町を糖菓町へ』

2位：Team燦水会 『各地のFM放送を使った低コストな「街の活性化」実験』

※惜しくも予選通過はなりませんでしたが、やまね屋(企画)とおか市から始まるまちづくりの提案も立派なものでした。まだ1年生、来年大いに期待が持たれます。

### 経済的理由により修学困難な学生を支援する 学費軽減制度を開始

未だ景気の回復が見込めない経済情勢を鑑み、平成23年度より経済的理由により修学が困難な学生に対し、授業料の半額を免除する制度を導入します。詳細は、以下の通りです。ご不明な点は、学生課(0257-24-6402)までお問い合わせください。

1. 対象者 本学の学部学生で、学費負担者の年間所得が下表に該当する者(留学生を除く)

通学形態	自宅通学	自宅外通学
年間所得の上限	300万円程度	350万円程度

2. 学費軽減の期間 平成23年度(1カ年)
3. 学費軽減の範囲 授業料に限り2分の1を上限として軽減する。
4. 申請手続き方法 学生課にある所定の用紙に必要事項を記載するとともに必要書類(授業料減免申請書、家庭状況調査書、H21年度、H22年度今現在の所得金額を証明できるもの、ほか生活の困窮を証明できるものなど。詳しくは、申請書類に明記)を用意し、学生課に締切日までに提出すること。
5. 申請書類提出期間 平成23年1月11日(火)～2月10日(木)
6. 審査について 学内において、提出された書類を基に、学費負担者および家計を一にする家族の年間所得、家族構成、奨学金受給の状況、修学意欲等を総合的に審査し、採否を決定する。
7. 通知について 学費軽減の採否については、2月18日(金)に保護者宛に文書で通知する。

# 活躍してます産大生!!



経済学部2年 五十嵐未帆

## ●「書道部」を立ち上げて

書道部は、平成22年6月に設立したばかりで、現在は学外顧問の方から週1回を目安に教えてもらっています。

活動としては、筆ペンで基礎の見直しや個々に合わせた毛筆での練習などを積み重ねており、これらの活動を通して字の表現方法を学ぶことの楽しさと共に難しさや奥深さなど、様々なことを学べたと思います。

そして練習をしていく上で気を付けていることや指導を受けたところなどを改善出来るように心掛けていますので、少しずつでも納得のいく字を書けた時は喜びを感じます。

これは、私だけでなく書道部員にも当てはまると思いますが、これから品評会などの催しを開き、各個人が一步ずつでも上達しているような活動をしたと思っています。

また、書道の良さを多くの人に知ってもらえるような活動をしたいです。

## ●「地元ラジオ局から情報発信」 「ホワイトボードの活動」

毎週金曜日19時から、柏崎コミュニティ放送FM局「FMピッカラ」で「ホワイトボード」というラジオ番組を担当しています。メンバーは学友会の1年生を中心にローテーションし、ほぼ毎回ゲストを学内外から迎えています。

番組構成は、MC(語り)と放送機械の調整を学生達で行い、また番組の企画やオンエアする曲も自分達で考えます。

放送内容は、本学のイベント紹介から、10代の学生が休み時間に語るような流行(はやり)の何気ない話題や授業中の先生のお話、そしてこの番組を積極的に聴いてもらうための作戦トークなどを、電波を通じて柏崎の町へ、さらにコミュニティ放送系列の各地へ繋げ、インターネットからも聴いていただいています。

この体験を通して、人間関係等においても、常に言葉を大切にしていきたいと考えています。

そんな個性的な産大生がお届けするラジオ番組「ホワイトボード」を毎週金曜pm7時、ぜひお聴きください!



## ●「レッツ トライ」 はねうまサイクリングキャンプ

私達は、今年の夏休みを利用して、小中学生の子供達と自転車で行く新潟県を7日間かけて縦断する、という「はねうまサイクリングキャンプ」のボランティアに参加しました。

炎天下の中、最初はどのようなことかと思いましたが、お互い励まし合い、何とか完走することができました。

最初は打ち解けることのできなかった子供達も、時間が経つにつれて打ち解け合い、団結力が生まれ、日々成長していく子供達の姿を目の当たりにすることができました。

また、子供達だけでなく、リーダーとして参加した私達も様々な面で子供達から学ぶことが多く、一緒に成長することができました。

最初は不安だらけでスタートしたサイクリングでしたが、最後には子供達もリーダーもみんな笑顔でゴールすることができ、他では絶対に味わえないような感動を味わうことができました。

是非、また来年も参加したいと思っ



## ●「十日町ビジネスコンテスト」 「トオコン」に参戦

私たちA(クラス)基礎ゼミは、十日町ビジネスコンテストに出場しました。

私たちはまず、十日町のことについてほとんど何も知らなかったのが最初に十日町について調べることから始めました。

そこで人口、地理、観光地、行事の4点について4班に分けて調べることになりました。その作業を進めていくうちに、特に「行事」について企画を進めることにしました。

具体的には十日町で月1回、「とおか市」というものが行われるので、それを盛り上げて人を呼び込み同時に十日町に興味を持ってもらうという企画です。

結果としては予選落ちという残念な結果に終わりましたが、普段なかなかできないような貴重な体験もでき、また十日町コンテストを通して、ゼミの人たちとの親睦もより深まったと思います。

私もリーダーをやらせていただいたりと色々学ぶべき事が多かったです。

そして将来またこのようなことをする機会があれば、この体験を役立てていきたいと思っています。

